

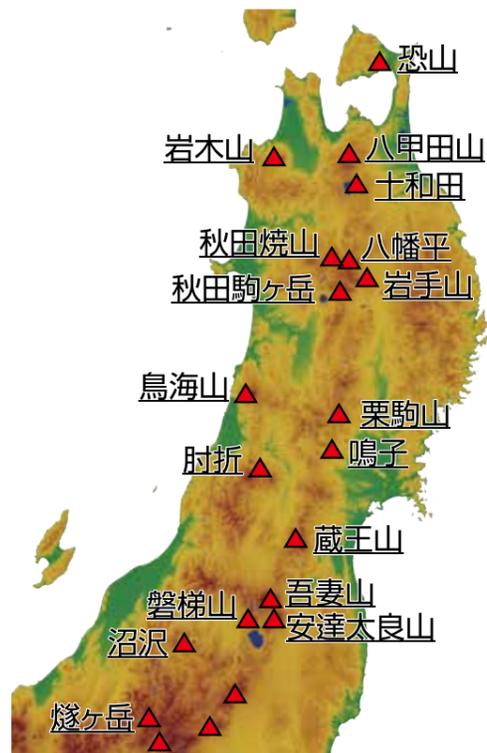
宮城県にある火山も、これまで何度も噴火をくり返してきました。  
どのようにして火山災害から身を守ればよいでしょうか。

日本にはたくさんの火山があります。

昔の火山活動がつくり出したきれいな景色、火山の周りに存在する温泉、農作物をつくるのに欠かせない良質な土などがあり、私たちの生活と深いつながりをもっています。

しかし、時に火山は、噴火などによって私たちに被害をもたらすこともあります。

東北地方には、18の活火山（おおむね過去1万年以内に噴火した火山および現在活発な噴気活動のある火山）があります。



参考：気象庁「火山 その監視と防災」パンフレット内資料を加工して作成



火山活動にともなう地震が発生することもあるので、注意が必要だね。



噴火の歴史（一部）

西暦	被害状況
844年	刈田嶽噴火
870年	蔵王山に異常あり
1227年	陸奥柴田郡に石が雨のように降る
1230年	陸奥柴田郡に石が雨のように降る
1624年	灰遠く飛んで草木の葉が埋もれる
1669年	降灰。刈田、柴田、名取数郡におよび作物に損害をおよぼす
1867年	湖水沸騰。硫黄が混じった泥水により洪水。死者3人
1895年	白煙噴出。川魚被害。河川増水
1940年	新噴気孔生成

参考：宮城県災害年表、気象庁ホームページ

## 栗駒山



噴火の歴史

西暦	被害状況
1716年	栗駒山噴出して燃える
1744年	須川嶽焼く
1944年	栗駒山少量の泥が噴き出す
1946年	栗駒山爆発
1950年	栗駒山爆発

参考：宮城県災害年表

## 鳴子



噴火の歴史

西暦	被害状況
837年	むつこのくにたまつくり 陸奥国玉造温泉石震動、火山活動
1784年	玉造郡鬼首山の巨石上に吹き出す

参考：宮城県災害年表

## 知って おこ

火山災害の原因となる大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、発生から避難までの時間がほとんどなく、危険性が高いため、噴火

警報などを活用した避難が必要になります。

### ○大きな噴石

爆発的な噴火によって火口から吹き飛ばされた直径約50cm以上の大きな岩石などは、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力もちます。



浅間山 写真提供：気象庁

### ○火砕流

高温の火砕物（火山灰、軽石など）と高温のガスが一体となって猛スピードで山腹を駆け下り、焼失・破壊など壊滅的な被害が生じます。



雲仙岳 写真提供：気象庁

### ○融雪型火山泥流

噴火にともなう火砕流などの熱によって積雪が融け、大量の水と土砂が一体となって高速で谷筋や沢沿いをはるか遠方まで一気に流下し、壊滅的な被害が生じます。

噴火警報では、主にこれらの現象に対する「警戒が必要な範囲」が発表されます。

これらの現象は、発生を確認してから避難するのでは間に合わないため、噴火警報を活用した事前の避難や入山規制などがあることを知っておきましょう。

気象庁のHPで、警戒レベルと、とるべき対応を調べましょう。

参考：気象庁「火山 その監視と防災」パンフレット内資料を加工して作成